



アルカサバ・シアター (パレスチナ)
Al-Kasaba Theatre (Palestine)

作・演出 ショージ・イブラヒム / 美術: 椿昇

『壁 - 占領下の物語 II』

The Wall - Stories Under Occupation II

< アラビア語上演・日本語字幕付 >

主催: NPO法人アートネットワーク・ジャパン

中東シリーズ共催: 独立行政法人国際交流基金

協賛: アサヒビール(株) / (株)資生堂 / トヨタ自動車(株) / 松下電器産業(株)

平成16年度文化庁国際芸術交流支援事業

2005年3月10日(木) - 15日(火)

パークタワーホール

お問合せ

東京国際芸術祭(TIF)

TEL. 03-5961-5202/ FAX. 03-5961-5207

tif@anj.or.jp

作品『壁 占領下の物語 II 』

「アライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語」、衝撃と感動の東京公演から 1 年。パレスチナの現実を演劇の力で世界に発信するアルカサバ・シアターが、日本美術界の鬼才・椿昇とのコラボレーションによる新作をひきさげて待望の東京・世界初演を行います。

「占領下の物語」シリーズの第2弾となる今回の作品のテーマは「壁」。見える壁 / 見えざる壁、築かれる壁 / 崩壊する壁。壁の内側 / 壁の外側...壁は守るもの？ 越えるもの？ パレスチナ・日本から世界へ。東京国際芸術祭 2005 でアルカサバ・シアターと国際共同製作する今回の新作は、「壁」という、人間社会が抱える根源的な問題に正面から取り組むアートの挑戦となるでしょう。

パレスチナに生きる人々の現実を、演劇の力を通していかに世界に伝えるか？

アルカサバ・シアターはこの問題と正面から向き合いながら、困難な状況下で絶えず公演を行い、新作を作り続けています。東京国際芸術祭 2004 では『アライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語』を上演し、日本の観客に大きな衝撃と感動を呼び起こしました。

今回、NPO法人アートネットワーク・ジャパンとアルカサバ・シアターが東京国際芸術祭 2005 にて国際共同製作する新作は、「壁」をテーマにしたストーリーです。

目に見える壁。目に見えない壁 -。壁は、私たちのまわりにいつも造られています。建設中の壁、崩壊した壁 -。人類の歴史の中で、対立する文明や国家、民族の間に、どれだけの多くの壁が築かれ、崩壊していったことでしょうか。そして壁の周りで生きる人々の生活や苦しみは、いつも歴史の中に埋もれていきます。現在イスラエルが建設を進める「分離壁」はパレスチナ自治区の生活圏を分断し閉鎖してしまうと指摘されていますが、実際に壁によって人々の生活がどのように変質していくのか、日常的な目線で彼らの現実を語るメディアは多くありません。今回の新作では、「壁」をはさんで生きる人々の生活が、アルカサバ・シアター独自のアイロニーと力強い演技で描かれていきます。

舞台美術を担当するのは、日本美術界の鬼才、椿昇。椿昇は、01 年横浜トリエンナーレの話題をさらった巨大インスタレーション「ザ・インセクトワールド」、03 年イラク戦争開戦と同時期に発表された「国連少年」展など、社会に向けた鋭い批評性を、インパクトの強い造形とプロジェクト型の企画を通して戦略的に提起する美術家。彼は今回、パレスチナの現実とどのように対峙し視覚化するのでしょうか？ 世界のアート界からも大きな注目が集まります。

パレスチナを分断する「分離壁」という現実

人類の歴史の中で、国家や民族、イデオロギーの対立によって築かれてきた無数の壁。万里の長城やベルリンの壁のように物理的にも目に見える壁から、差別や社会構造によって人々を精神的に隔てる不可視の壁まで、実に多くの壁が築かれ、人々を断絶し、やがて崩壊していきました。今、新しい壁が中東で生まれています。2002年よりイスラエルが「テロリストの侵入を防ぐ」という名目でパレスチナ・ヨルダン川西岸地区とイスラエルの境界地帯に建設を進めている分離壁です。巨大なコンクリート壁や電流フェンス、塹壕、監視塔などから構成され、高いところでは高さ8メートルにも及ぶこの壁は、現在すでに200kmが建設され、完成すれば全長約700km(東京 青森間に匹敵)にもなります。また、実際には停戦ラインよりもパレスチナ側に深く食いこみ、人々の交通や日常生活に大きな障害をもたらしていることから、国連をはじめとする国際社会から批判を浴びています。

壁の歴史は何度も繰り返されるが、その壁の周りで生きる人々の生活や苦しみは、歴史の中に埋もれ消えていってしまう。アルカサバ・シアターの新作は、壁がもたらす現実の断片を、日常的な目線から独自のユーモアとアイロニーたっぷりに語るものとなるでしょう。



2004年10月、エルサレムにて撮影(椿昇)

パレスチナ人のための文化拠点 パレスチナから世界へ

アルカサバとは「街の中心」という意味。パレスチナ自治区・ヨルダン川西岸の中心都市ラマラに位置する民間劇場 & シネマテークだ。

アルカサバ・シアターは 1970 年、ジョージ・イブラヒムによって劇団として創設された。86 年には東エルサレムに小劇場を開設し、数々の作品を発表、アラブ世界屈指の劇団に成長する。

93年のオスロ合意後、一部パレスチナ領土がイスラエルの占領から解放され、パレスチナ暫定政権が誕生。このまま和平が実現すると信じた彼らは、パレスチナ文化と経済の中心地ラマラにもう一つ劇場を増設することを決意する。フランスの個人メセナ支援もあり、2000年6月、400人の劇場と300人の映画館を併設するアルカサバ・シアター & シネマテークとしてオープンした。ラマラ市中心部に位置する劇場には、定期的に行われる演劇公演や映画上映のために多くの市民が集まり、パレスチナ人にとって最も重要な文化拠点となっている。

劇場は 20 名ほどの専属スタッフを抱え、作品ごとにパレスチナ屈指の俳優たちを集めたプロダクションを組む。これまで制作した作品は、中東の主要な演劇祭や欧米で発表され、世界的に高い評価を受けている。またパレスチナ唯一の映画館として映画の配給・上映にも力をいれ、アラブ映画からハリウッド、ヨーロッパ映画まで、世界の映画をパレスチナで紹介する多彩なプログラムを提供している。

現在アルカサバ・シアターは子供向けのワークショップや公演にも力を注いでおり、ヨルダン川西岸地区の町や難民キャンプに出向き、生活習慣や歴史を教えるための芝居や人形劇など盛んな活動を展開している。

占領下における芸術活動 芸術によるインティファダ

ラマラを含むヨルダン川西岸地区では 93 年のオスロ合意以後、パレスチナ国家建設に向けた暫定自治がスタートした。しかし劇場オープンの3ヵ月後(2000年9月)、アリエル・シャロン(当時リクード党党首、現イスラエル首相)が東エルサレムのイスラム教聖地、アルアクサ・モスクを突然訪問、第2次インティファダへと突入する。イスラエル軍による占領・侵攻は後を絶たず、また自治区は検問所(チェックポイント)と建設中の「分離壁」によって自治区外との出入りは制限されているため、エルサレムやベツレヘムなどラマラ以外の都市に住む役者やスタッフの通勤は容易ではない。

02年のイスラエル軍によるラマラ侵攻時には文化施設も一斉攻撃され、アルカサバ・シアターでもステレオシステムが破壊され、ビデオプロジェクターを略奪されるなどの大きな被害を受けた。しかし武器ではなく芸術の力によるインティファダを掲げるアルカサバはすぐに復旧し、世界とパレスチナを芸術によって繋ぐ精力的な活動を展開している。



アルカサバ・シアター正面玄関



アルカサバ・シアター 劇場ホール内部

「我々は大きな夢に向かって大きくアルカサバの扉を開けた。今、その夢がついえたとは言いたくないが、まだこの夢の実現は不可能ではないと希望を持ちつづけたい。」 (ジョージ・イブラヒム)

アルカサバ・シアター年表

- 1970 年: ジョージ・イブラヒム、アルカサバ・シアター (劇団) を主宰
- 1986 年: 東エルサレムに劇場スペース、アルカサバ・シアター、オープン
- 1995 年: 『Ramzi Abu Al Majd』 カルタゴ演劇祭参加、ベスト俳優賞受賞
- 1999 年: 『移民』 カルタゴ演劇祭参加、ベスト演出賞、ベスト衣装賞受賞
- 1999 年: 『ゴールド・フィッシュ』 カルタゴ児童演劇祭、ベスト作品賞受賞
- 2000 年: ヨルダン川西岸地区ラマラにアルカサバ・シアター & シネマテークがオープン
- 2001 年: 『ライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語』カイロ国際実験演劇祭に参加、
ベスト演劇作品賞受賞
- 2001 年: 『ライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語』ロンドン国際演劇祭 (LIFT) 公演
- 2002 年: イスラエル軍によるラマラ侵攻、劇場の一部損壊
- 2002 年: 『ライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語』アメリカ 3 都市
(サンフランシスコ、LA、ニューヘブン) 公演
- 2003 年: 『ライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語』ブリュッセル公演
- 2003 年: 『ライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語』カルタゴ演劇祭参加、金賞受賞
- 2004 年: 『ライブ・フロム・パレスチナ 占領下の物語』東京国際芸術祭 (TIF) 公演
- 2004 年: 新作『スマイル・ユー・ア・パレスチニアン』、ラマラ初演
- 2005 年: 東京国際芸術祭との国際共同制作作品『壁 占領下の物語 II』東京・世界初演

アルカサバ・シアターのウェブサイト <http://www.alkasaba.org>

ジョージ・イブラヒム George Ibrahim (アルカサバ・シアター ディレクター)

アルカサバ・シアター & シネマテークの創設者でありディレクターでもあるジョージ・イブラヒムは、若い頃から俳優として活躍、劇作家・演出家としても活躍し、現在パレスチナ文化における最も重要な人物の一人である。パレスチナ俳優連盟会長。

1945年テルアビブ近郊の街ラムラで、キリスト教徒の一家に生まれる。48年、イスラエル建国に伴い一家は住居を失い、数十万人のパレスチナ人同様難民となりアンマン(ヨルダン)に身を寄せる。幼いイブラヒムはアンマンで成長する。

若いころから役者としてテレビやラジオに出演していた彼は当然のように67年、ヘブライ大学演劇科へ進学。学科ではただ一人のパレスチナ人であった。その3年後、アラブの同胞であったはずのヨルダンが国内で活動するパレスチナ・ゲリラを弾圧、パレスチナ難民にも多くの死者がでる。この「黒い九月」の後、イブラヒムは家族をエルサレムに呼び寄せる。

70年、エルサレムを拠点に自ら劇団を主宰し、劇作家・演出家としての活動を開始。86年には東エルサレムに小劇場アルカサバ・シアターを創設する。カミュ、サルトル、マリヴォーといったヨーロッパの近・現代演劇から、中東の作家 Elias Khoury, Walid Medfai など幅広く演出。代表作としては『Ramzi Abu Al Majd』(95年カルタゴ国際演劇祭、ベスト俳優賞受賞作)、『移民』(99年カルタゴ演劇祭、ベスト演出賞及びベスト衣装賞受賞)などが挙げられる。また自らもアラビア語で戯曲を手がけ、これまで15戯曲を創作している。古典から現代まで100本近い作品を演出、42作品に主演、さらには数え切れないほどの子供向けTV番組やラジオドラマに出演している。

最近では、2002年のカンヌ国際映画祭で国際映画批評家賞を受賞したパレスチナ映画『D.I.』(エリヤ・スレイマン監督作品)の冒頭シーンで、子どもに追われナザレの丘を駆け上るサンタクロース役としてスクリーンにも登場している。

ラムラに劇場をオープンさせた彼の次の夢は、パレスチナ初の演劇学校を開設するというもの。日本をはじめ世界の芸術ネットワークに大きな期待を寄せる。

ジョージ・イブラヒム年表

1945年:テルアビブ近郊の町ラムラに生まれる

1948年:イスラエル建国にともない一家はヨルダンへ

1964年 - 67年:ヨルダンで俳優として活動

1967年:ヘブライ大学演劇科へ進学

1969年:「黒い9月」勃発、家族をエルサレムへ呼び寄せる

1970年:アルカサバ・シアター(劇団)主宰

1986年:東エルサレムに劇場スペース、アルカサバ・シアターを創設

2000年:ヨルダン川西岸地区ラムラにアルカサバ・シアター & シネマテークを創設

美術： 椿 昇 (アーティスト)

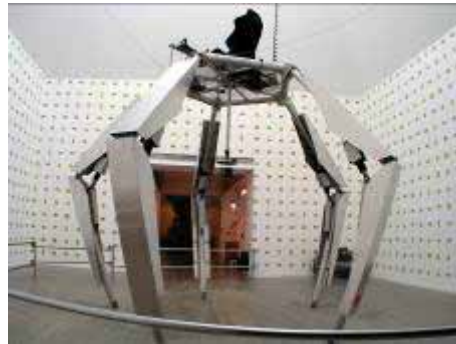
社会に向けた鋭い批評性や問題意識を、実に多様なプロジェクトや作品として戦略的に提起するマルチ・アーティスト。現在日本のアートシーンを牽引するアーティストの一人。

1953 年生まれ。京都市立芸術大学美術専攻科修了。関西の中学・高校で美術教師として教鞭をとる傍ら、アーティストとして次々と作品を発表し、国内外で多くの展覧会、個展を精力的に行う。ヴェニスビエンナーレ出品(93 年)、ドイツのハノーバー万博における日本館のアートディレクション担当(2000 年)など、世界的な大舞台でも高い評価を受けている。

2001 年横浜トリエンナーレでは、メディア哲学者室井尚とのコラボレーションにより、高さ 144m のインターコンチネンタルホテルの壁面に、全長 50m のバルーン製巨大バットを張り付けるプロジェクト「ザ・インセクトワールド」を発表、横浜トリエンナーレのシンボリック作品となる。(写真左) 03 年には、水戸芸術館現代美術センターにて「国連少年」展を発表、イラク戦争を巡る国際社会が危機的状況を迎えた時期とも重なり大きな社会的反響をよんだ。(写真右) その後バングラデッシュやニュージーランドで「UN.Application Radikal Dialogue Project」を展開、人間社会が抱える環境汚染や貧困など諸問題の構造について人々が気づき、行動するための様々な仕掛けづくりを作品として提示している。



『ザ・インセクトワールド』 - 横浜トリエンナーレ (01 年)



『ペンタ』 - 国連少年展 水戸芸術館現代美術センター(03 年)

04 年にはアルカサバ・シアターとのコラボレーションのためイスラエル・パレスチナを訪問。壁の現実と意味するものに大きな衝撃を受けた椿は、舞台美術のみならず、自らの Radikal Dialogue Project としてもこの問題に取り組む。

公 演 概 要

公演タイトル: 『壁 占領下の物語 II』 The Wall – Stories Under Occupation II
 作・演出: ジョージ・イブラヒム George Ibrahim
 美術: 椿昇 Noboru Tsubaki
 照明・音響: モアッズ・ジュバ Mua'z Ju'beh
 音楽: ジャミール・アッサーイフ Jamil Al Sayah
 カンパニーマネージャー: ハナ・ハバシュ Hanna Habash

.....
 出演: マフムード・アワド Mahmoud Awad
 フサム・アブエシェ Husam Abu Eisheh
 イスマイル・ダバーク Ismail Dabbagh
 イマド・アルファラジーン Imad Al Farajin
 ドリーン・ムナーヤー Dorin Munayer
 アハマド・アブーサルルーム Ahmed Abu Saloum
 マナル・アワド Manal Awad

日本側スタッフ

舞台監督: 小林裕二
 照明: 小笠原純(ファクター)
 音響: 相川晶(サウンド・ウィーズ)
 制作: 相馬千秋(NPO 法人アートネットワーク・ジャパン)

上演言語: アラビア語・日本語字幕付
 上演時間: 90分 (予定)

公演日: 3月10日(木)―3月15日(火)

3月10日 (木)	3月11日 (金)	3月12日 (土)	3月13日 (日)	3月14日 (月)	3月15日 (火)
	14:00				13:30【貸切】
19:30	19:30	17:00	17:00	19:30	19:30

終演後、ポスト・パフォーマンス・トークあり

会場： パークタワーホール
料金： 【全席指定・税込】4,000 円 / 学生 2,500 円
(当日学生証提示、枚数制限あり、TIF でのみ取扱)
中東2カンパニー公演セット券 6,000 円(パレスチナ・チュニジア)
(限定 100 セット、TIF でのみ取扱)
前売開始： 2005 年 1 月 14 日(金)
チケット取扱： チケットぴあ TEL 0570-02-9999 / 0570-02-9966 (P コード 358-972)
東京国際芸術祭(TIF)
TEL 03-5961-5202 <http://anj.or.jp>
問い合わせ： 東京国際芸術祭(TIF) TEL 03-5961-5202 tif@anj.or.jp <http://anj.or.jp>